

【「学んだことを整理して文で書く」という受験勉強方法について】

1. 不合格の原因

「筆記試験で、解答が頭の中にあったがこれを時間内で書くことができなかったので不合格になった」という経験のある受験生の方もいると思います。この不合格の原因は、「頭の中にある解答を整理しそれを文にして答案用紙に書く」ということに時間がかかったことです。解答が頭の中にあってもその整理に時間がかかったり、整理した内容を文にすることに時間がかかったりすれば時間内に解答を書くことができません。

これらが主な原因で不合格になった場合には、これらの原因の解決策を考えることで次の試験での合格が見えてきます。

2. 「学んだことを整理して文で書くこと」とは

2.1 不合格の原因対策

「学んだことを整理して文で書く」ということを受験勉強の中で徹底して行うことが不合格の原因対策です。「解答を整理することとそれを文にすること」に時間がかかるため「整理して文で書く力」を鍛える必要があるからです。

2.2 「整理して文で書く力」を鍛える方法

「整理して文で書く力」を鍛える方法とは、2025年11月19日に掲載した『自分の言葉で書く』という受験勉強方法について」というテーマのダウンロード資料の中で解説していることを実践することです^{注)}。つまり、この方法とは、学んだことの要点や要約を自分の言葉でノートに手で書くことです。

学んだことの要点や要約を自分の言葉で書くためには、学んだことを理解しそれを整理する必要があります。受験勉強の中で、学んだことを理解しそれを整理することを徹底して行うことで「整理する力」を鍛えることができます。「頭の中で整理すること」に慣れてくるからです。

また、その要点や要約を文にすることで「整理して文で書く力」を鍛えることができます。頭の中で整理してそれを文で書くことに慣れてくるからです。

注)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の『自分の言葉で書く』という受験勉強方法について」の資料を参照のこと

3. 内容が明確に伝わる文が書けるようにする

3.1 走り書き程度で書くこと

『自分の言葉で書く』という受験勉強方法について」というテーマのダウンロード資料の中

では、「学んだことの要点や要約を走り書き程度でノートに書いて構わない」と解説しました。これは、「学んだことの要点や要約を丁寧に書くことに時間をかけるのではなくこれらを考えることに時間を使う」という意味です。しかし、答案用紙に書く文は、試験官に文の内容が明確に伝わるように書く必要があります。走り書き程度で答案用紙に解答を書くことはできません。書いた本人には内容が明確に伝わっても試験官にも内容が明確に伝わるとは限らないからです。

3.2 内容が明確に伝わる文を書くトレーニングをする

内容が明確に伝わる文を書くトレーニングは、基本的に、日常業務の中で行います。受験勉強の中では「整理する力」を鍛えることが重要だからです。

「ルール6：明確に伝わる文を書く」を使って日常業務の中で、例えば、メール、会議や打ち合わせ資料あるいは業務報告書などの技術文書を書くことで内容が明確に伝わる文が書けるようになります。すなわち、日常業務の中で明確に伝わる文を書くトレーニングをすることで内容が明確に伝わる文を試験で書くことができるようになります。

以 上